

新規受託項目のお知らせ

拝啓 平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。
このたび下記の項目におきまして新規検査受託を開始いたしますので、
ご案内いたします。

今後とも引き続きお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

＜実施日＞

2010年10月4日(月)受付分より受託開始

＜新規受託項目＞

項目コード	検査項目	検体量	保存方法	基準値	検査方法	所要日数
1463	ω-5 グリアジン (食餌性アレルギー)	血清 0.3ml	冷蔵	0.34以下 (U _A /ml)	FEIA法	3～4日
1464	カシューナッツ (食餌性アレルギー)					
1290	マラセチア(属) (真菌)					

＜判定基準＞

クラス	0	1	2	3	4	5	6
判定	NEGATIVE	BORDER LINE	CLEAR POSITIVE	STRING POSITIVE	HIGHLY POSITIVE		
U _A /ml	0.34以下	0.35～0.69	0.70～3.49	3.5～17.49	17.50～49.99	50.00～99.99	100以上

＜臨床的意義＞

• ω -5 グリアジン

小麦の成分は水溶性成分と不溶性成分に大きく分けられ、 ω -5グリアジンは不溶性成分の一つです。 ω -5グリアジンは不溶性成分の一つのコンポーネントであり、コンポーネントに対するIgEを測定することで、粗抽出アレルゲンを利用した場合よりも精緻な診断が可能になると期待されます。

小麦に対する特異的IgEが要請であり、小麦アレルギーと診断された群および非小麦アレルギー群(小麦負荷試験で陰性)を対象として ω -5グリアジンの特異的IgEを測定した結果、小麦アレルギー群では約80%の例で陽性、非小麦アレルギー群では殆どが陰性または低値を示したと報告されています。

また、 ω -5グリアジンは、小麦による食物依存性運動誘発アナフィラキシー(WDEIA)の診断において臨床的感度が優れ、小麦(約50%)、グルテン(約60%)に対して、80%との報告があります。WDEIAが疑われるケースの場合、負荷試験(食事及び運動負荷)を実施しても症状再現率は70%程度と高くないため、当初より小麦と ω -5グリアジンを同時に測定することも有用です。

•カシューナッツ

カシューナッツは、厚生労働省科学研究班で行われている食物アレルギーの原因食物調査において、平成20年度には上位20位以内にランキングされており、また、ショックの原因としてはカシューナッツは11位と報告されています。頻度は高くは有りませんが、重篤な症状を引き起こす可能性が高く注意が必要です。

既存のナッツ類(クルミ・アーモンド・ハシバミ・ココナッツなど)とともに、幅広く原因アレルゲンの検索が可能となります。

•マラセチア(属)

マラセチア属の抗原性の異なる *Malassezia sympodialis*, *M.restricta*, *M.globosa* の3種類の真菌からの抽出液を混合したものを抗原として使用しています。

アトピー性皮膚炎との関連が報告されており、頭頸部の症状が重篤なアトピー性皮膚炎の例でマラセチアに対する特異的IgEが検出されています。